

令和4年 9月の安らぎ通信

目次

- (1)  台風や豪雨に備える保険 マンションでも要検討
- (2)  ゲリラ豪雨 7~9月 1.4倍 昨年比、民間が発生予測
- (3)  水生成装置、災害時に開放 アクアテック
- (4)  火山噴火 予測に限界、防災意識カギ 退避計画づくり途上
- (5)  防災備蓄どう収納 在庫回転意識 目安は2週間分
- (6)  地震保険支払い、最短7日 三井住友海上
- (7)  防災 家族とともに考える



- (1)  **台風や豪雨に備える保険 マンションでも要検討**

☆火災保険

*住まいの被害を総合的にカバーする保険。

*火災だけでなく、落雷やガス漏れなどによる破裂・爆発の被害、風災・ひょう災・雪災といった自然災害、豪雨による浸水などの水災（水害）も補償対象。

*自動車の飛び込みなど外部からの衝突、漏水などによる水濡れ、盗難、暮らしの中で起こり得る破損・汚損などの補償もセットされた商品が一般的。

*自治体の「洪水ハザードマップ」で、我が家のリスクがどれくらいあるか確認。

*最近では下水道の排水能力を超える雨量により、マンホールや側溝から水があふれる「内水氾濫」のリスクも。

・「内水ハザードマップ」で浸水の深さはどれくらいになりそうかをチェック。

・マンションでもベランダの雨水が排水しきれず、室内に浸水するといった被害。

・内水氾濫が原因で、行き場のない下水が室内に逆流することもある。

*火災保険は2022年10月1日以降を始期日とする契約について、保険料の引き上げが予定されています。

・全国平均で11~13%程度引き上げ。

・最長10年で契約できる保険期間が5年間に短縮。

*火災保険料は建物の所在地や構造区分、築年数によって異なります。

*保険金の請求は、片付けや家の修理の後でも構いません。

☆もし被災したら

- 片づけたり修理したりする前に、被災状況を示す写真を撮影
- *破損部などを近くから撮影した写真
- *建物や部屋の全体の中で壊れた場所が判別できる写真
- 浸水の場合は壁に残った水の痕の高さがわかるように、ペットボトルなどを置いて撮影
- 自治体の窓口で罹災証明書の申請
- 損害保険会社に保険金の請求
- *カスタマーセンターなどに日時、場所、損害の状況を報告
- *所定の保険金額請求書、損害を証明するための建設業者などによる修理見積書、被害状況の写真を提出

☆水災補償の3つの条件

- ①住居として使用している部分の床を超える浸水
 - ②地盤面から45cmを超える浸水
 - ③再調達価額（同程度の建物や家財を取得するのに必要となる金額）の30%以上の損害
- ・・・①～③のいずれかを満たした場合。

(2022年8月6日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)



(2) ゲリラ豪雨 7~9月 1.4倍 昨年比、民間が発生予測

土砂崩れ・浸水に注意

- *「ゲリラ豪雨」が今年7~9月にかけて、昨年の1.4倍の約9万回発生するとの予測。
- *集中豪雨は半世紀で倍増。
- *1時間降水量が80ミリ以上の雨の平均年間発生回数を、1976年からの10年間と、2021年までの10年間で比べると1.7倍に増加。
- *3時間雨量が130ミリ以上の集中豪雨の発生数は、2020年は1976年の約2.2倍。
 - ・7月は約3.8倍に。
- *日本の年平均気温は上昇傾向。
 - ・1991~2020年の30年間の平均気温と各年の平均気温を比べると2019年は0.62度、2020年は0.65度、2021年は0.61度高くなっています。

晴れた日の夕方 背高い雲が予兆

*夏は強い日差しで空気が暖められて積乱雲が発生しやすく、晴れた日の夕方にゲリラ豪雨が起こりやすくなります。

*遠くの空にモクモクとした背の高い雲ができてきたら要注意。

*雲が灰色に変わって頭上に迫り、冷たい風が吹いてきたら強い雨が降り始めるサイン。

(2022年8月17日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

(3) 水生成装置、災害時に開放 アクアテック

三井住友海上と 1000 台販売へ

*整水器を手掛けるアクアテックは三井住友海上保険と連携し、空気から水を取り出して飲料水にする装置を 2023 年度までに国内に 1000 台販売する方針。

*販売価格はオープンですが、実勢は 30 万円台後半。

*「熱交換器」で空気中の水蒸気を水滴に変えます。

*集めた水は殺菌や除菌をして飲み水にできるほか、平時は水道管とつないで浄水器としても使えます。

*台風や地震による断水は復旧までに停電よりも長期間かかる傾向があります。

(2022年8月25日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

(4) 火山噴火 予測に限界、防災意識カギ

退避計画づくり途上

*火山噴火は予測が難しく、住民らの安全意識を高めることが欠かせません。

*気象庁は国内で 50 の活火山を 24 時間体制で観測。

*地震や台風に比べ、被災経験者が少ない火山防災は住民の理解を得るハードルが高くなります。 *近隣住民だけでなく登山客も警戒が必要。

*活火山は突発的に爆発する可能性が常にあります。

*観測網が整備された火山でも、現在の科学では噴火の規模や時期は正確な予測が困難。

(2022年8月25日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

(5) 防災備蓄どう収納 在庫回転意識 目安は2週間分

*備蓄品管理では、「自宅に保管している在庫品の個数」を「1か月で使う量」で割ってみます。

*防災備蓄で理想の回転期間は、食品は家族全員の最低3日分、できれば1週間分など、目安は様々に言われています。

*備蓄しておきたい品物リストを手元に置き、自宅の状況を点検。

☆備蓄品をどう整理・収納しておくか

*2週間分の水とレトルト食品だけを考えても、かなり広いスペースが必要。

*保管場所は押し入れの枕棚や下段の墨、納屋やベランダの活用など、普段手の届きにくい場所が候補に。

*自宅に被害が出るケースなどを想定し、分散しておく。

*具体的にどの品がどこに置いてあるのか、家族全員が把握できるようにするのが大事。

*「ローリングストック」：普段から少し多めに買い置きし、使ったらまた買い足す管理方法。

☆ベランダを活用

*ロック機能のある蓋つきの収納ボックスが便利。

*水を分散収納するとよい。

*避難の妨げにならないよう置く場所には注意。

☆食品は保管数が常にわかるように

*備蓄用の食品は四角いカゴに詰めてクローゼットへ。

*後で個数が数えやすいように写真を撮っておく。

☆緊急用リュックは玄関へ

*懐中電灯や緊急時に持ち出すリュックは、玄関やベッドの下に。

*玄関に収納スペースがないときは、普段使わない靴を押し入れなど別の場所に移すのも手。

☆「開かずの段ボール」まず整理

*押し入れやクローゼットを点検。

*捨てにくいのが、何年も開いていない段ボール箱があれば、中身を確認。

*量を減らせないか考えてみる。

(2022年8月27日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)



(6) 地震保険支払い、最短 7 日 三井住友海上

データ活用、損害調査なし

* 三井住友海上火災保険は、災害発生から最短 7 日後（平均 14 日）に保険金を支払う中小企業向け地震保険の取り扱いを始めます。

- ・ 震度 6 弱以上が対象。
- ・ 過去に起きた地震による企業の被害データを分析し、事前に震度に合わせた保険金を設定。
- ・ 地震発生時に自動で支払う仕組み。
- ・ 被災した企業が事業を再開するまでの資金繰りを支援。
- ・ 緊急時の休業補償を想定。
- ・ 倒壊した工場などの再建は実損を補償する地震保険に別途加入が必要。
- ・ 保険金は企業の粗利益で決まります。
- ・ 一般的な地震保険に比べて保険料は 2 割ほど高くなります。

* 損害保険会社は通常、震度 6 以上の大規模震災では調査が難航し、支払までに平均で 200 日かかります。

(2022 年 8 月 29 日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)



(7) 防災 家族とともに考える

* 大雨などによる土砂災害は 1990 年から 2009 年までの発生件数は、年平均で 1000 件程度。

- ・ 2010 年から 2019 年では 1476 件と、ほぼ 1.5 倍に。

* ゲリラ豪雨（局地的大雨）など災害につながるような大雨の発生件数も増加。

- ・ 1 時間の降水量が 50mm 以上の発生回数は、2002 年から 2011 年までの 10 年間の平均で年約 291 回。2012 年から 2021 年では約 327 回に。

☆ 自宅の災害リスクを把握

* 自治体のハザードマップで、洪水、土砂災害、高潮、津波など災害の種類別に地図で確認。

- ・ 避難場所の情報も。

☆3つの条件を満たせば、在宅避難の選択肢も

豪雨時の在宅避難の判断基準

- | | |
|---|-------------------------|
| 1 | 家屋倒壊等氾濫想定区域に入っていない |
| 2 | 浸水深より居室が高い |
| 3 | 水が引くまで我慢でき、水・食料などの備えが十分 |

*ハザードマップで3つの条件が確認できれば、浸水の危険があっても自宅にとどまり安全を確保することも可能。

(2022年8月29日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

